

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470300615
法人名	医療法人社団 伊純会
事業所名	グループホーム シエル 西横浜
訪問調査日	平成20年9月5日
評価確定日	平成20年9月19日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 9月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	第1470300615号
法人名	医療法人社団 伊純会
事業所名	グループホーム シエル西横浜
所在地	神奈川県横浜市西区久保町2-11 ラ・トゥール西横浜1階・2階 (電話) 045-232-8221

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年9月5日	評価確定日	平成20年9月19日

【情報提供票より】(平成 20年 7月 24日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17人	
職員数	16人	常勤 12人	非常勤 4人	常勤換算 7.7人

(2) 建物概要

建物構造	(鉄筋コンクリート)造り
	7階建ての (1)階 ~ (2)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	67,700 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	有 200,000 円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 250,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (7月24日 現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	診療所スカイ、聖隷横浜病院、そえだ歯科クリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは相鉄線西横浜駅より徒歩5分のニコニコ商店街内のマンションの1・2階にあります。自治会をはじめ商店街やマンション住民との交流を大切に運営されています。室内は明るく、バリアフリーで、家庭的な家具やソファもあります。7階にある屋上は見晴らしも良く、みなとみらい地区の花火も鑑賞できます。商店街での買い物や近隣の公園等へも度々散歩に出かけて、ストレスの発散や気分転換に努めています。運営者は医師であり、かかりつけ医も務めています。運営法人には、介護老人保健施設やクリニックもあり、医療との連携が充実し、一人ひとりを尊重したケアが提供されています。内部運営については、職員の研修体制や資格手当を充実させて良好な職場環境作りがなされ、チームワークの良さが感じられます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では、特に改善課題は提示されませんでした。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価はパート職員を除いた全職員が参加し、各フロアーの責任者が取りまとめ、今回の自己評価および外部評価の目的および意義に関しては、カンファレンス等の職員会議を通じて周知徹底を図っています。サービスの向上に努めています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、ホームの運営活動状況の報告を主に行っています。またホーム側から地域の活動を知らせて欲しい旨の申し入れを行い、地区の回覧板の回覧に加わり、利用者と職員が祭りや、餅つき等の地域イベントに積極的に参加しています。地域の掲示板の利用の許可を得て、屋上での花火見物等のお誘い案内やボランティアの募集をする掲示をし、地域社会に溶け込もうと努力をしています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>苦情についての法人窓口や、第三者機関のパンフレット等が玄関に掲示されています。家族の訪問時には、積極的に交流連携を図っています。苦情・要望があった場合は、直ちに管理者が対応して、カンファレンスを行い共有しています。以前、ポータブルトイレを居室で使用していた時、においに対する要望があった時も、カンファレンスを行い、席替えを行って、トイレ誘導に切り替える事で改善されました。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、盆踊りや夏祭り、餅つき等の自治会行事に参加しています。地元商店街に加入しており、利用者と共に買い物をしたり、お散歩の時には、積極的に挨拶をして交流しています。みなとみらい地区で行われる花火大会の時には、鑑賞のために屋上に家族と共に近隣住民をお招きして交流しています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念を開設時に作成しています。理念は、「笑顔につながる生活を目指し」「ゆっくり急がず」「穏やかな毎日をサポートする」。今後、地域密着型の理念を職員間で話し合い作り上げて行く意向でいます。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、各事務室に掲示されており、職員は夜勤の時や空いている時間に確認しています。介護計画にも反映されており、理念を念頭に置いて、一人ひとりを尊重した楽しい生活をサポートしています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しています。行事等があれば声をかけてもらっています。盆踊りや夏祭り等に積極的に参加しています。商店会へも加入して買い物やお散歩時に挨拶をしています。花火大会時に近隣住民に屋上を開放したり、火災報知機の管理や連絡係として連携交流を図っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回で4度目の外部評価となり、管理者をはじめ全職員が評価の目的および意義を理解しています。パート職員を除いた全職員で自己評価を行い、責任者が取りまとめています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	過去に2回開催しており、直近では19年の11月に開催しています。運営推進会議の席上で地域の回覧に加えて頂くようお願いし、その結果地域の催しが把握でき利用者および職員の参加が増えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当者と常に連絡を取り合いサービスの向上に努めています。市区の担当者がオブザーバーとして出席しているグループホームブロック連絡会、区の連絡会に参加し情報の交換をしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書と共に日頃の様子をお知らせしています。小口現金出納帳や行事の写真も送っています。また、家族の訪問時にも近況報告を行い積極的な交流をしています。花火大会やクリスマス会等のホームの行事へも招待しています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時には、「気になることはないですか?」と、声をかけています。苦情については、玄関に法人内や第三者機関の掲示がされています。最近、ポータブルトイレのおいについての要望には職員間で協議して改善し運営面に反映しています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はありません。有給休暇の積極的な消化を奨励したり、休憩時間の確保や勤務日の希望を叶える等、職場環境の整備された運営がされています。新人職員が入った場合は、入居者に紹介して、最初はベテラン職員と一緒に勤務してもらい、徐々に馴染みの関係が作れるようにしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画が作成されており、参加者や人数もあらかじめ決められています。職員は交換研修や各種研修に参加した場合にはレポートの回覧により、共有しています。また、ヘルパー2級より介護福祉士迄の資格手当があり、職員の意欲向上を図っています。新人職員にはベテラン職員によるOJTを行っています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国・県グループホーム協議会への研修への参加や横浜市グループホーム連絡会、ブロック連絡会、西区連絡会等積極的に参加して交流連携を行っています。横浜市の交換研修参加者の提案により、食材を業者委託する事にして、買い物時間を節約するなど、サービスの向上に向けた取り組みが行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心し、納得の上、入居して頂くよう入居予定者本人および家族等の相談に応じ、相談記録にまとめて保管しています。</p> <p>お試し入所(2週間)の制度を設けて馴染みやすい工夫をしています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者から昔の出来事や習慣を教えて頂いたり、料理の味付け、裁縫、屋上でのカラオケ、ダルマ落しなどのゲーム遊びを通してお互いに信頼し合い、日々を楽しく過ごしています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普段の行動や会話を通じて入居者の意向を把握しています。言語にしづらい場合も家族から聞いたり、表情や行動から読み取り、センター方式のアセスメントツールを利用して「行動・心理社会・医療・健康面」の項目に分けて記載して把握し、共有しています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月に1~2回は個別のカンファレンスを行って介護計画についての話し合いを行っています。利用者や家族の意見や希望を出来るだけ取り入れています。医師や看護師より、個別の水分摂取量の目安や足の浮腫があるので軽い運動をしましょう等のアドバイスも介護計画に反映しています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月に1~2度のケアカンファレンス時や変化があれば随時話し合い、見直しの機会を作っています。その他、3ヶ月に1度定期的にモニタリングを行って、介護計画を作成しています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医師である理事長が24時間いつでも往診できる体制が整っています。 法人の老健施設が休日(日曜日)に場所を借りてカラオケ大会等を行っています。 家族が付添えない場合の通院介助等の相談に応じています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には、当ホームの往診診療記録を提示して協力合っています。 ホームに往診可能な医師がいることを説明し、ご家族および利用者を選択して頂くよう配慮しています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態に重度化が予想される場合には、その都度かかりつけ医、家族等と話し合いを行い今後の方針を決めています。職員には会議などで重度化に対する説明を十分に言い、共有化を図っています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報は事務所の書庫に施錠し保管されています。全職員や実習生とも個人情報保護に関する誓約書を交わしています。トイレ誘導もさりげなく行い、失禁時もトイレよりカーテンを引いて直接浴室に移動できる様に工夫しています。浴室・脱衣室を使用中は施錠を心掛けています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調が悪い場合は午睡してもらったり、気分転換の為に、屋上を利用したり、散歩に午前・午後出かける人もいます。外出が苦手な人にも自分の買い物がある場合には、声かけをしています。テレビを観る時間も自由です。縫物や刺繍が好きな人も多く、それぞれの好みに応じた支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	玉ねぎの皮むきやもやしの根を取ったり、配膳や下膳、洗い物の手伝い等利用者の声を聞きながら支援しています。食事の好き嫌いや、刻み食等個々の好みや状況に応じて支援しています。職員も利用者と一緒に同じ食事をしながらさりげなく支援しています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一人ずつ行い、湯は一人ひとり入れ替えています。入浴の回数は、毎日入る人や週2～3回の人もいます。入浴時間や、湯の温度の好みにも応じています。菖蒲湯やゆず湯等も工夫しており、利用者の負担軽減の為2人介助で行う場合もあります。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意なもの例えば、ぬり絵、裁縫、カラオケ等のゲームや配膳、食器拭き、掃除などして頂いています。魚屋をしていた利用者から魚の名前を聞いたり、さばき方を教えて頂いています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋上でのカラオケ、久保町公園への散歩、近隣の商店街での買い物など日常的な外出に努めています。杉山神社への初詣や、みなとみらいの臨港パークへの散策等も実施しています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが車道に挟まれており危険なために安全を考慮して1階の出入り口のみ施錠しています。1階、2階共にベランダに自由に出入りできるようにしてあります。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	過去に2回消防署指導の下で避難訓練を実施していますが、同じマンションの住民および地域の方々からの参加を未だ頂いておりません。		夜間の職員が手薄になる状況を踏まえて利用者の安全確保のためにも、マンションの所有者および自治会長と相談し、地域ぐるみの防災の協力が得られることが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は、専門の事業者から毎日配達されています。日々の献立表の作成、栄養素のチェックは業者が行い、調理はホーム内で行っています。水分の摂取は日々の生活記録で把握し、必要により、医師による指導も行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室および共用の場所は、温度、湿度、明るさは快適に保たれています。換気は朝起きた後の掃除の時間に一斉に窓を開け実施しています。昼食の時間にはそれぞれのフロアで好みの音楽を流す等して楽しんでいます。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、カーテン、エアコン、照明以外の家具類は各自が自由に持ち込んでいます。なかには家族の写真を飾ったり仏壇を設置してる方もいます。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	医療法人社団 伊純会 グループホームシエル西横浜
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市西区久保町2-11ラ・トゥール西横浜101・201
記入者名 (管理者)	鈴木 淳子
記入日	平成 20年 08月 01日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です) 1階

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人グループの理念で名前の由来でもあるSlow Kindness Yourselfを元にGHで「笑顔につながる生活をめざし」「ゆっくり急がず」「穏やかな毎日をサポートする」という理念を開所時に作成した。</p>	<p>理念の見直しを図り、新たな理念の構築</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日常の中で管理者とスタッフは理念の実践に向け取り組んでいる。「運営理念」はA4用紙に大きく印字され、職員や外部の人にも目に付くよう各ユニットの事務所の壁に掲載している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の中でも行われていて、入所時や開所時に理解してもらえるようにパンフレット等を配布し、浸透に努めている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や買い物へ出掛けて近所との顔見知りの関係はできている。近所の方より不要になったオムツ類を引き取って欲しいと声を掛けられる事もあり、近所の方々にもホームで行われる行事や花火大会等に参加していただくように声を掛けたり掲示板を使わせて頂いている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会、商店街会等の行事に参加することで地域交流を図っている。敬老の日には記念品、もち付きの日はおもちを持ってきてくださったりする。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	随時電話による問い合わせや見学等を受け、地域の声に応えられるよう対応している。開所間もない時地域住民に向けて「認知症とは」を開催したことがある。		缶や新聞の回収の手伝い 自分たちにそこまで出来る力をつける。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受けることで自己評価を行い、普段から出来ていること、できていないことを職員会議などで話し合いより良いホームになるよう努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年2回開催し報告、話し合いをしている。3回目を開く予定ではあるが、うまく運営推進会議を活かしきれない現状もあり、どうしたらいいか検討している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所の方と西区のGHが集まり話あう機会を設けている。その他にも区役所での勉強会にも参加している。		担当者との連携を計りサービスの質の向上に努める。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修、勉強会に参加し学ぶ機会を持っている。全スタッフとは言えないので今後多くのスタッフにも参加してもらおうと思っている。必要な方とは区役所の方と相談し活用できるように支援している。		勉強会に参加していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、スタッフ共に虐待について各自理解し、意識を高め合い虐待防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所契約時だけでなく、随時不安や、疑問があれば聞いてくれるように声をかけている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者さんが自由に発言できるようにしている。日常の内でも意見や不満を聴き、改善できる点がないかスタッフで話し合うようにしているが、出来ないこともあるのでその旨を利用はさんに伝え納得してもらっている。</p>	<p>外部者への機会の検討</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1度請求書を送る際に1ヶ月各個人の様子や写真、金銭管理表を送っている。職員の異動等は顔を合わせたときに報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会等に来られた時は気になることはないか声を掛けている。また、ホーム、法人、行政の苦情窓口の連絡先を玄関に掲示している。意見等あった時には連絡ノートへ記入し、その日居なかったスタッフにもその旨を伝えている。最近ではPトイレ使用で居室が臭いと家族の意見があり、スタッフで対策を考えて改善した。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1度は職員ミーティングを開いて意見や提案を述べている。その他にも日常の中で何かあれば話している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者さんの生活の変化に応じて勤務時間を変えることもある。外食に行く日などは人を多く配置するなど調整に努めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動はない。離職の際には利用者さんに伝え皆で見送っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は特にないが、ミーティング等で新人スタッフに対して必要なことは話しをしている。外部の研修には段階に合わせて受ける機会を設けている。また、資格取得を奨励している。		勉強会の開催や内部研修
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH、横浜市GH、連絡会に参加し交流を深め、研修等を行っている。西区内のGHで集まり情報交換の場を持ち向上に努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々の会話を持ち、ゆとりを持って仕事している。 新人歓迎会、新(忘)年会の開催。 有給休暇の消化を奨励している。 話を聴くなどストレスの緩和に努めている。 休憩時間を取り一見入れられるように工夫している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現場の状況を理解し、スタッフの努めや成果の把握に努めている。各自が意見を述べ、自由な環境でやりがいを持って働いていける職場を目指している。		不満があればこちらから運営者に働きかける
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	一人の利用者さんに偏らず会話をすることでその日、その時何を思っているかをゆっくり聴くように対応している。自分の意見を上手に伝えられない利用者さんも居るが表情や言動を見逃さず受け止める努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	仲の善し思いを把握し孤立しないように努めている。利用者同士の助け合う場面や支え合う場面を大事にし個性をうまく活かせるように配慮している。また家族や利用者さん自身が抱えている不安、希望、状況を一つ一つ傾聴し対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	急いで入所先を探している方には他のGHを紹介したり、話を伺い、必要としているサービスを見極め、他にもいろいろサービスがあることを伝えてよく考えていただけるように努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望者にはお試し入所(2Week位)をしている。過去にはお試し入所し、あれこれ工夫をして慣れてもらおうとした方がいたが最終的に話し合い入所に至らなかった例もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	歌や昔のことについて個々の持っている知識を引き出すようなレクや会話をし、信頼関係のある上でお互い気軽に声を掛け合っている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所された際にはいろいろとお話をして気軽に情報交換し合い、支援を求めていることがあれば一緒に解決できるようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	請求書送付時に1ヶ月の利用者さんの様子をまとめたものと写真を送って本人の現状を理解してもらっている。花火見物やクリスマス会には家族の参加を呼び掛けている。本人が会いたがっているが会ってくれない家族もあり、家族の都合を考慮した上で会えるように連絡を取り調整している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話、手紙の制限はしておらず、今までの関係が途切れないようにしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の善し思しを把握し孤立しないように努めている。利用者同士の助け合う場面や支え合う場面を大事にし個性をうまく活かせるように配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約の終了後も何か困った事があれば相談にのる旨を話している。他施設へ入所した利用者に面会に行ったりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で本人の意向の把握に努め言葉にしづらい思いも行動や表情から理解するよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人、家族から詳しいことを聞いて全スタッフで把握に努めている。入所後にも「個人ファイル」に生活歴、既往歴が記入され、いつでも見れるようになっている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活記録への細かい記入やスタッフ同士での伝達で個人の情報を正確に把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日利用者1人ずつケアカンファレンスを行うことで変化を見つけやすく、いろんな意見を出し合っている。また、それを用い介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間中に利用者さんの変化があり、対応策はすぐに話し合うが、一時的なものだったり、状況がいろいろ変わったりすることが多く、3ヶ月はそのままの介護計画を使用し、変更事項だけをスタッフに伝えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活記録があり、日々の生活の様子を記入し、全スタッフで共有できるようにしている。空いた時間に1人の利用者に対し気づいた点やケアへの工夫等を話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が付き添えない場合の通院介助や他サービス利用への相談、かかりつけ医の24時間対応可能な体制、法人グループの老健施設を利用したカラオケ等柔軟に対応できるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察、消防、民生委員、地域ケアプラザとの連携を図り、地域資源との協働に努め、利用者のためになるよう努めている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ニーズに応じて他のサービス支援を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと連携は取れており何かあれば相談し合える関係を築いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医が居ることを話した上でご家族や本人に選択してもらっている。専門を紹介した方がいい方には紹介し、ホームかかりつけ医と良好な関係が持つるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	日常の変化はかかりつけ医に相談し、指示や助言を仰いでいる。専門医に受診する際は情報を交換して互いが協力、支えることが出来るように努めている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護師が週に1度診察に来て利用者の状況を診ている。かかりつけ医との連携もとれており健康管理などを行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院へ見舞いに行き病院関係者と情報を交換し状態の把握に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態が重度化が予想される時は、かかりつけ医、本人、家族と話し合い今後の対応を検討している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホーム内での出来る対応やできないことを説明しかかりつけ医と共に対応している。必要であれば医療機関への紹介をしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	サマリーを渡し、その他の日常的な対応の仕方など必要な情報の提供を行う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個々の状態を把握し、その方にあった声掛けや対応をしている。個人情報保護の取り決めをしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常会話でゆっくりと話を聴き、本人の希望を引き出し満足のいくように努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人のやりたい事、やりたい時間を伺いその人のペースを大切にしている。会話の中から要望を見出し対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容は希望にあわせ店にいける。個々にあわせ身だしなみやおしゃれを出来るように支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>出来る範囲で一緒に準備や後片付けをしている。好みに合わせ皆と違う食材も提供できる。月に1度出前を取ったり外食したりしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>安全性、健康状態を考えた上で可能な範囲で楽しんで頂く。お茶の時間は希望を聞き好きなものを飲んで頂いたりおやつを選んで頂く。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個人の排泄方法で声掛けしたり時間で介助している。排泄の失敗を気にするあまりオムツ、パット、リハビリパンツの使用が多くなっている。</p>		<p>オムツなどの使用を極力減らし、ADLの低下を防ぐ。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週に2,3回入浴できるようにしている。入りたいときに入れるように心がけているが、拒否が長く続いている方から優先しているので希望通りとまではいっていない。</p>		<p>「入りたい」と思える環境作り、配慮に努める。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>消灯の時間は決めておらずその方にあった生活習慣で休んで頂く。必要に応じて昼寝をして頂く。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>レクリエーションの実施や生活の中で手伝いをして頂いている。散歩が好きな方には出来るだけ外へ行けるよう支援している。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理できる方にはお金を持っていていただき外出時に好きな物を買っていただいている。預かっている方も欲しいものがあれば出来るだけ一緒に買い物に行くようにしている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>希望時に外出できるように努めている。戸外が好きな方には1日1回と決めずに出掛けられている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>ホームの車で遠出したり家族の方と外出されたりしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すればいつでも電話をかけ、必要に応じスタッフが取り次ぐ。手紙を書いたり、出したりの援助をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	好きな時間に来て頂き、食堂や居室など思い思いの場所で過ごして頂く。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に身体拘束を理解、意識してケアにあたっており拘束を行っていない。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	過去にも離設があり、ホームが一般道に挟まれているので鍵をかけている。		施錠しない利点は理解しているが、車の通りが近く危険。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の様子、所在を常に確認しながら行動している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状況から大丈夫だと判断した場合は自己管理して頂く。スタッフで話し合い、過剰に管理することのないように努めている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット事故報告書を記入し、スタッフ間で情報を共有し今後の改善を話し合う。火を使わない、確薬、歩行の危険な方は付き添いや見守りをし、事故防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルがあり内容を理解している。救命救急の講座を受けている。		定期的に訓練を行い緊急時に落ち着いて対応できるようにしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器の設置、設備点検を行っている。避難経路は把握しているが避難訓練は行っていない。		地域住民の参加、協力を得て避難訓練が定期的に行えるような体制を整えたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	顔色や様子に注意し些細な変化も見落とさないように努めている。記録すると共にかかりつけ医に報告している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表があり薬に対して理解に努めている。薬による状態の変化に気を配り、状況に応じかかりつけ医に報告している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養管理された食事で自然排便に努めている。水分補給に牛乳を取り入れたりもする。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアの声掛けをし行っている。必要に応じ介助している。拒否が強い場合はタイミングをみて何度か声を掛けしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べられる量、飲める量を無理なく摂取してもらい、普段より極端に低い場合は、食べやすいものなど変化を加え提供している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルがあり活用している。インフルエンザ予防接種を行い、手洗いやうがいをこまめに行っている。		新人スタッフも増えているので感染症について勉強会を開きたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾、まな板の消毒、調理器具の洗浄を徹底している。食材は翌日の分のみ冷蔵庫に入っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表札や目印、案内板などをホーム外に張っている。マンションの一般の方と同じ玄関で施設らしさはない。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部には季節ごとの飾り付けをしたり写真などもたくさん飾ってある。一般家庭にある家具を置いている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル席やソファ等置き好きな場所で過ごされている。浴室使用时には入っていることがわかるようにしプライベートな空間を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、布団、衣類など使い慣れたものを使用している。本人がレクリエーションで作った物を居室に飾ったり貼ったりして心地よく過ごせるように支援している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓を開けることによる自然な換気を行っている。エアコンは利用者の様子を伺いながら調節している。本人の希望も聞き入れながら上着を重ねたり脱いだりして調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内に手すりがついている。利用者の動線を見て危険な家具の配置は避けている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々のレベルを把握し出来るだけ自立して暮らせるよう支援し、必要時は介助に入る。定時でのトイレ誘導を行い、目に見える場所での失敗を防止したり理解されるまでゆっくりお話ししている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに出て日光浴や鼻の水遣りを楽しんでいる。専用の屋上もあり洗濯物を一緒に干しに行ったり気晴らしに利用している。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者とスタッフが家庭的な雰囲気の中で生活している。
- ・商店街や公園が近いので外出がしやすい環境である。
- ・経営者が医者なので24時間連絡が取れ、往診等のフットワークも軽く迅速な対応ができる。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人社団 伊純会 グループホーム シエル西横浜
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市西区久保町2 - 11 ラ・トゥール西横浜
記入者名 (管理者)	鈴木 淳子
記入日	平成 20年 8月 1日

(様式1)

自己評価票 2階

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームとしての理念はあるが、地域との係わりについてはあげていない。	地域との係わりを含めた理念を検討していく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に目に入る場所に掲示してあり、また日々のサービス提供に生かされている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議を通し、理解してもらえよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	商店街へ買い物や散歩などに出向き地域の方とは顔見知りになっている。花火大会には同じマンションの住人も集い屋上を開放している。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、餅つき大会やパレードの見物などの行事に参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組みをしていきたいが、スタッフ不足やホームの狭さ等あり実際には介護教室を1回開いただけにとどまっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価内容の改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い自治会などとの関わり合う機会をもっている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の高齢支援担当や生保担当との関わりは密にとれている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	過去に利用している入所者がいたので、職員はおおまかではあるが理解している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から虐待防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要最小限に抑える様努力している。利用者スタッフとの馴染みや信頼関係ができています。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交換研修やレクリエーション講習等の研修を受けられる機会をもうけている。ベテランのスタッフが新人職員への指導が出来る様にシフトを組んでいる。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修やグループホーム連絡会へ参加し、同業者との交流する機会がある。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	新人歓迎会、忘年会を開催している。休みたい日の希望をなるべく聞くなどの努力をしている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	向上心を持てるよう、毎日カンファレンスを行い全職員の意見を反映できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に面会を行い、不安を最小限にして入所できる様に努力している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に面会を行い、不安を最小限にして入所できる様に努力している。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所希望者及びその家族とケアマネが面会を重ね、利用希望者に最良と思われるサービスが何かをスタッフ間で相談をして一緒に考えている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>面談、面会、見学を重ねている。希望があれば、お試しでの入所も可能にしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>できることは、ゆっくりとでもやっていただき必要以上に介助をしないようにしている。生活の知恵など利用者に教わる場面も多い。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	受診が必要な時やイベント・床屋等の際、電話や面会時等に家族へ伝え協力をしていただいている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間に制限はなく、希望されれば、宿泊可能。疎遠となってしまった利用者の家族とご本人と会えるよう働きかけをした事もある。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙、面会は自由にいただいている。利用者の友達も気軽に立ち寄っていただける様にしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、テーブル席の配置に気を配ったりしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後の利用者の新しい入居先（老健等）に面会に行ったりしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎日カンファレンスを行っている。普段の会話や行動からよみとり、コミュニケーションの中で聞き出す様に努めている。ご本人の気持ちを考えた上でのアプローチを考えている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時やその後の家族との話で、ご本人のバックグラウンドに関する情報を集め、それをサービスに生かしている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>ご本人の状況を細かなことも記録を行っている。最近、記録の書式を替え記録に費やす時間が減り見やすくなった。変化あればスタッフ全員がその変化を把握できるように努めている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎日カンファレンスを行っている。ご本人、家族の意見をできる限り伺い取り入れてる。又スタッフ間でのアイデアを出し合い、ケアプラン作成時にはそのことを生かしモニタリングをしている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>一人ひとりにあったケアプランをご本人の気持ちを踏まえた上で、スタッフ全員でアイデアを出し合い作成している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度、できるだけ細かく記録すると共に気付いた点は毎日のカンファレンスで話し合い、介護見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状況に適したサービスがおこなえるよう、役所の高支担当者の方や医師との連携等行い、細かい柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員は運営推進会議に参加していただき協力いただいている。ボランティアの受け入れが出来ている。警察や消防等の協力は不足。		警察、消防の協力を得られる様働きかけを行う。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	個別に必要性のあるサービスを利用したこともある。(集団行動が苦手な利用者に個別ヘルパーと散歩のサービスを組み入れたり)		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターのケアマネにも運営推進会議に参加いただき、何かあれば相談できる体勢はとれている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営者が医師である為、基本的にはかかりつけ医である。希望があったり、必要があれば他の医療機関も受診していただいている。その際は、連絡を密にする様にしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	経営者が老健も経営している医師であり、認知症に対する診断・治療が受けられる。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回の、同じ看護師の訪問あり。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先のドクターや看護師と密に情報交換を行い、早期退院に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族のいない利用者は多いが、家族のいる利用者は、常に話し合いをする様にしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームで『できること・できないこと』を明確にし、今後の支援について話し合い等できている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	ダメージを最小限にする様転出先の関係者との情報交換を行っている。	
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	会話には、その人らしさを大切にされた細心の注意をはらっている。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	一人ひとりに合わせた言葉かけを行って自己表現しやすい様努力している。また利用者の行動をよく観察し、ご本人が何をしたいのか、何を言いたいのか観察する事が出来るよう支援している。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	できる限り、ご本人の希望にそえる様支援している。	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	希望したお店へ行き、ご自分の好きな髪形にしている	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けを出来る範囲でしていただいている。スタッフは利用者と同じメニュー・時間で一緒に食事を摂っている。月1回の外食か出前の日を設けており、自分でメニューを決めてもらっている。嫌いな食べ物は、提供せず代替食品にしている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	体調や経済状況を考慮した上で自由にいただいている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	体調の優れない時以外は、日中トイレにて排泄をしていただいている。個々の排泄パターンに合わせた対応をしている。失禁されている方へは、自尊心を考慮してさりげない声掛けを行っている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めていなく、夕飯前までなら好きな時間帯に入らせていただいている。また、入浴時間の希望がある人は、その時間帯に声掛けをしている。入浴後は湯船のお湯を抜き、その都度湯を入れ替えている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中活気ある生活をしていただく事により、夜眠できる様に努力している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人との会話やご家族の話から生活歴を聞き出し得意分野や好きな事を楽しんでいただけるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば、ご家族と相談の上で小口現金をお渡しし自由に使っていただいている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば一緒に出掛けるようにしている。買い物に行く時も必ず声を掛けるようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の協力なしでは難しいが、外泊や外出している利用者がある。運転のできる職員がいる時は、車で遠出する時もある。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は自由にいただいている。コードレス電話の子機があるので居室でも話しができプライバシーの配慮もしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に制限はなく、宿泊していただけるご家族もいる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル化されており身体拘束は行っていない。声掛けを重視している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけていない		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に目配りできる所にいるよう心掛けている。1日中、居室で過ごされている利用者には笑談がてら様子を見に伺っている。歩行、立位が不安定な方には家族の同意を得た上で鈴を付けさせていただき動きの把握に努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	縫い針を使っている方はチェック表を作り、毎日、本数の確認をさせていただいている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルがある。 ヒヤリハットや事故報告書をもとに、その都度、事故防止策が検討される。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルはあるが定期的な訓練はできていない。		勉強会や講習会の参加、また定期的に訓練を行う。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て誘導方法のマニュアルは作ったが地域との連携はできていない。		運営推進会議を通して地域の人々の協力を得られるよう働きかけていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時や来所持にリスクについて説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常にカンファレンスを行い日々の変化や異変に対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表で確認できるようになっており職員はおおよそ把握できている。症状に変化があればDr.や家族へすぐに連絡している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分や野菜、乳製品を摂っていただいている。薬はDr.と相談の上、状態に応じ細かく調整している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後なるべく口腔ケアをすすめ利用者一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は業者に委託しているのでカロリー計算されている。個々に合わせペーストやきざみ食にするなどの工夫をしている。水分はご本人の好みを考えて提供し不足のないよう努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、インフルエンザ予防接種を利用者、スタッフ共に行っている。 疥癬、ノロウイルスについては対応マニュアルがあり発生した場合に備えている。		肝炎、MRSAについてのマニュアルを作る。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は専門の配食業者がほぼ毎日届けてくる。調理器具等は、毎晩消毒を行っている。早く作らない様にして、作ってから口にするまでの時間がある時は冷蔵庫にて保管している。生野菜は熱湯をかけたりして、なるべく生で食べない様になっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	賃貸マンション内の為に限界があるが、できる範囲で表札をだしたり花を飾ったり、木々を植えている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節感がある飾りつけや写真を貼ったりしている。 夜間は利用者の危険のない範囲内で、照明を調整している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にソファや3人掛けのベンチもあり居場所の工夫をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、ご本人が使用していた家具等を持ち込んでもらっている。仏壇を持ち込まれている方もいる。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有スペースに関しては、24時間の換気システムがある。日中、窓を開けて換気している。窓が開けられない時は、ファブリーズ等の消臭剤を使用している。居室等が適温に保たれているのか、個々に合わせた温度調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内共有スペースと、必要な利用者の部屋に手すりを設置している。手すりだけでなく、歩行時つかまり易い様家具を置く等工夫している。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には、表札の様なプレートをつけている。又、トイレの扉にもプレートをつけている。トイレ内は、『流す・手を洗う』等、短く分かりやすい単語を用いて目が届く所へ貼っている。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周辺には花を飾り、利用者が水やりをしている。ベランダへの常時出入り自由となっており、外気浴をしたり、布団等を干したりしている。屋上には、テーブルやベンチがある。日光浴をしたり、夏には花火鑑賞を行っている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> たまにある <input type="checkbox"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> たまに <input type="checkbox"/> ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない <input type="checkbox"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・平坦な商店街の中にあるので利用者様の足腰に負担が少なく買い物や散歩に出る事が出来る。
- ・法人の代表者が開業医なので24時間365日、医療的な対応が可能。
- ・都会暮らしをしてきた利用者様には馴染みやすい周辺環境。